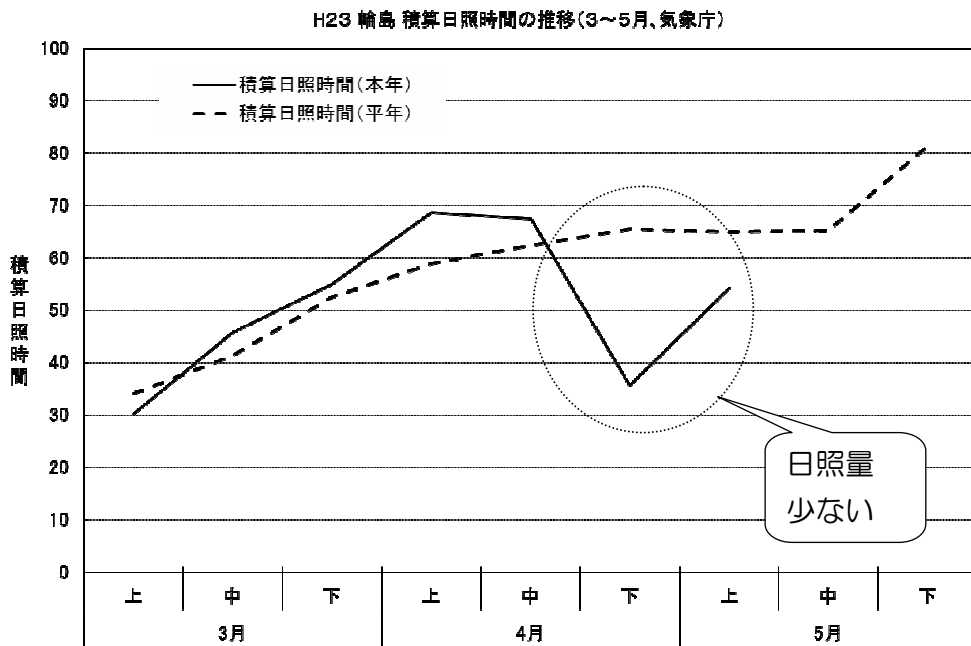
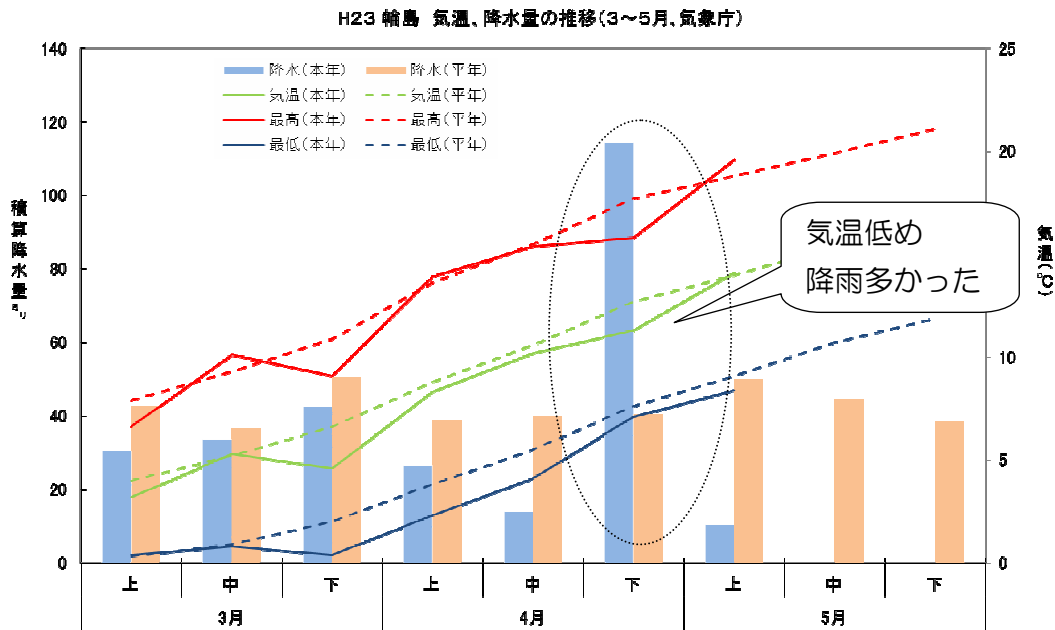


かぼちゃ講習会(ツル整枝～着果管理)

平成23年 月 日
JA おおぞら
輪島鳳珠地区集落農業活動支援センター

1. 生育概況

定植は4月中下旬から始まった。平年に比べて低温で推移したため、マルチ被覆期間が短く地温が十分上昇しなかったほ場に定植した苗では、霜による被害も散見された。また、定植期以降の日照不足により初期生育が遅れているため、今後の天候次第では目標節位での着果が遅れる可能性が考えられる。その場合は、収穫期から逆算した時期(収穫40～45日前)及び節位で着果させることが重要になってくる。



2. 中～後期管理のポイント

草勢・着果管理、日焼け対策、防除

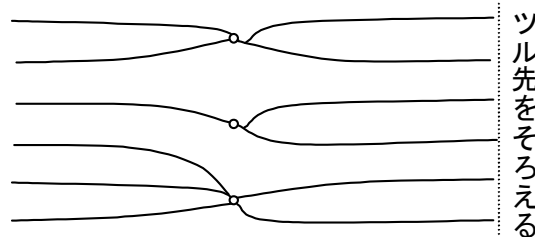
3. 整枝及びツルの配置

(1) ツルを4本に揃える

伸びてきた子ツルのうち生育が弱いツルを除去し、生育が揃った子ツル4本を目標に整理する。残した子ツルは両側に振り分け、ツルや葉が重ならないように、等間隔に配置する。

ツルは等間隔に配置する

ツルが足りない場合は、隣の株からもってくる



ツル先を揃えることで着果位置が揃い、管理も楽に！

(2) 整枝・摘花(果)

着果節位までの孫ツルと雌花は草勢を見ながら除去し、株元を整理する。

<草勢が強すぎる場合>

- ・孫ツルをやや伸ばしてから、除去する。
- ・株元に調整果をつけ（低節位着果させる）、着果節位の雌花が開花する前に除去する。

4. 人工受粉・・・一斉着果を目標に

(1) 低節位のものや変形果を摘果

1 ツル1果を目安に、着果節位の雌花の揃いを見ながら着果させる。

低節位に着果した果実は、早めに摘果する（目標節位の雌花が着果しにくいいため）。

(2) 着果節位について・・・天候を見ながら

10節以上での着果が望ましいが、天候と次の雌花を考慮した着果管理を実施する。生育が不良な場合は、さらに上位節に着果させる必要がある場合もある。

(3) 人工受粉は晴れの日の早朝に！

花粉は乾燥や水分に非常に弱いため、雨天や日中の受粉は避ける。

花粉が出ていることを確認し、晴れた日の早朝（朝8時くらいまで）に受粉を行う。

○ 人工受粉時刻と結実率の関係(児玉、1939)

受粉時刻	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
受粉数	38	38	38	38	38	38	38	38
着果数	26	25	17	14	10	10	6	4
着果率	68.4	65.8	44.7	36.8	26.3	26.3	15.8	10.5

注) 早朝は気温が低いいため、花粉が出ていないこともある。

5. 台座敷き

< ソフトボール大で台座敷き >

果実がソフトボール大で濃緑色になったら、台座を敷く（早すぎると果実を傷つける）。

果実と台座の間にツルがはさまったり、果実の上にツルが重ならないよう工夫する。

6. 2回目追肥(実肥え)

1番果が6～7割着果したら、ツル先に追肥する。

<施肥基準>

① 能登かぼちゃ2号施用体系

(kg/10a)

施肥体系	肥料名	総施用量	基肥	追肥			備考
				第1回	第2回	第3回	
能登かぼちゃ 2号体系	能登かぼちゃ2号	70	40	30			
	NK17号	40			20	20	3回目の追肥は2番果の状況を見て施用
	熔燐	40	40				熟畑では減量する
成分量	チッソ	18.8	6.9	5.2	3.4	3.4	
	リンサン	11.4	9.9	1.4			
	カリ	11.7	2.8	2.1	3.4	3.4	

② 粒状固形30号施用体系(従来の体系)

(kg/10a)

施肥体系	肥料名	総施用量	基肥	追肥			備考
				第1回	第2回	第3回	
粒状固形 30号 体系	粒状固形30号	70	70				
	硝加安333号	70		40	30		追肥は遅れないように施用する
	熔燐	40	40				
	苦土石灰	120	120				
	堆肥	2,000	2,000				
成分量	チッソ	16.1	7.0	5.2	3.9		
	リンサン	24.1	15.0	5.2	3.9		
	カリ	16.1	7.0	5.2	3.9		

7. 病害虫防除

うどんこ病の発生初期に防除する。まん延してからでは、薬剤の効果は落ちてしまう。

※ 粉剤は、ドリフト(農薬の飛散)がおきやすいため、動力噴霧器がない等のやむを得ない場合のみ使用する。

8. 梅雨明け時の日焼け対策

雨天続きの後、急激に天候が回復すると日焼け果が発生しやすくなる。

対策 ① 排水管理を徹底し、根傷みを防ぐ！

② ワラや雑草、新聞紙などで果実を覆い、日よけする！

注意! 果実の色が薄いうちに覆いをすると、着色不良になる。

※ 農薬を使用する際は、ラベルを確認し使用基準を守って使用すること。

※ タンク内に農薬が残らないよう、しっかり洗浄すること。

※ 防除は、他の作物へ飛散しないよう注意して行うこと。